

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000218		
法人名	社会福祉法人 さわらび会		
事業所名	認知症対応型グループホーム カサ デ ヴェルデ (あやめユニット)		
所在地	豊橋市杉山町字泉原139-1		
自己評価作成日	平成27年3月1日	評価結果市町村受理日	平成27年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市中種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成27年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さわらび会、山本孝之理事長の理念である「みんなの力でみんなの幸せを」をモットーに認知症介護三原則の1.いつも暖かい愛情と笑顔で2.決して叱らず制止せず3.今出来る事をして頂く3.今出来る事をして頂く。この理念を常に念頭に置きサービスの提供に努めております。カサデヴェルデは、閑静な住宅街にあり豊橋鉄道渥美線杉山駅徒歩20分かかりますが緑が多く静かで過ごしやすい環境で生活されております。居室にはトイレもあり夜間も安心して排泄できますし、使い慣れた家具を持ち込んで頂きながら明るく家庭的な雰囲気の中生活していただけます。カサデヴェルデは小規模特養と認知症型デイサービスが併設された施設となり、また同じ社会福祉法人内には特養や包括支援センターや居宅支援事業所もありその人の状況や要望にあったサービスを提供する事ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念の他、認知症三原則を念頭に置き、困難事例、些細な気づきなど細やかにケースカンファレンスを開催し話し職員で検討しながら支援に取り組んでいる。ケアプランの実施表を作成し職員がケアの内容を常に意識しながら、支援を行ない、モニタリングも同時に行っている。そのため、職員間でケアの統一が図れている。地域密着型の役割を果たすべく積極的に町内会の行事に参加している。「認知症サポート講座」は地域住民の関心も大きく好評であった。次回開催の要望の声も多く今後も継続していく予定である。又、多目的室を地域住民に開放し、多方向から地域との繋がりを深めようと努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時、理事長提唱の「認知症介護三原則」を唱和し、いかなる時も理念を念頭に置きサービスに努めております。職員の名札に入れて意識付けを行っている。	毎日館内放送の朝礼で理念、認知症介護の三原則を唱和している。声掛け、見守りを行いながら利用者ができることはやってもらうことで実践に繋げている。新人職員は入社後、法人の福祉村で理念に基づいた支援について学んでいる。現任職員はユニット会議で話し合いながら、振り返りの機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の回覧板にて地域情報の把握に努め、廃品回収などに参加したり又、近くに公園があり散歩に出かける時は近隣の方と挨拶をする関係をしております。	町内会に加入している。回覧版を活用し地域行事の情報収集、事業所行事の案内のお知らせをしている。地域行事の盆踊り、防災訓練等の参加を行い、地域の小学生との交流会、中学生の福祉体験の受け入れを行っている。「認知症サポート講座」を開催し、住民が多数参加している。様々な行事を活用し繋がりを深めるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園、母の会資源回収では施設前に回収に来て頂いたり、地域行事にも積極的に参加し小学校や中学校の福祉体験の受け入れを行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動報告や勉強会が行われておりサービスの向上にいかしています。	年間計画を立て年6回の開催がされている。事業所の活動報告、質疑応答の他、勉強会を行っている。地域住民から認知症についての勉強会の実施の要望があり、又、地域包括センターの担当者からは町内の祭りへの参加の促し等の意見があり、勉強会の実施、祭りの参加を実現し、運営の反映に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方とはあまり多くはないですが運営推進会議での講座をお願いしている。	市役所の長寿介護課と法人を通じ、業務相談等を行っている。出前講座の依頼を行い、市役所主催の虐待について、リスクマネジメントについてなどの勉強会の参加を行っている。又、地域包括センター主催の勉強会には、計画作成担当者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全性を考慮して玄関やエレベーターの入り口には施錠がある。ユニット間は自由に行き来している。どのような事が拘束にあたるかを話し合っって拘束をしないケアを意識している。	月1回のユニット会議で話し合いを行っている。認知症三原則の中の更に3つのブロック(薬で抑える、行動を抑える、言葉で抑える)事をしないという考えのもと、不穏時の行動の原因について話し合い、回避対策として水分不足、運動不足、便秘の改善等の症状をクリアにするなど対応を検討しながら身体拘束をしない支援に取り組んでいる。	新人研修の他、現任の従業者についても年間研修計画の中で身体拘束を行わないケアについて学ぶ機会を設けられる取組に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を作り勉強会にてどのような事が虐待にあたるかを話し合い意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について制度を理解できるよう勉強会の検討していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情窓口について説明をしており職員も面会時は状況報告をしており家族会や外出行事に家族様へ付き添い依頼するなど関わりを持っている。多くの意見を頂くにはアンケートの実施を検討していきたい。	意見箱の設置がある。面会時に状況報告を行いながらの会話から聴取している。定期的に家族デーがあり、花壇の整備等の奉仕活動に参加、遠方の外出時の付き添い、送迎の依頼等の関わりを持ち、話しやすい関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案がある場合は出来るだけ意見を聞いて解決へと努めております。今後は面談等職員個々に話を聞いて職員の意見の反映に努めたい。	職員間で話し合い、月1回のユニット会議の議題を提案している。職員意見の事例では、受診時に家族対応が困難な場合職員対応で受診を行っているが、平等を図る為別途料金制で職員が対応を行う。又、家族の負担を軽減する為訪問診療の利用を可能にする等様々な意見があり運営の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一回法人の代表者へ一人一人がメッセージを届ける機会があります。職員のキャリアに合わせた研修会が企画され参加している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には研修計画に基づいた研修会があり認知症の事や医療の事など様々な内容を学ぶ機会がありそれぞれのレベルに合った研修が企画され参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に入会され研修会や他GHとの輪投げ大会にも参加するなど他GHとの交流も少しずつ持てるようになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時によくお話を伺うようにしている。本人の傾聴をして生活歴から本人と生活を考慮したり携わる職員からの情報を共有する。又、入居当日に受け入れカンファレンスを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族やケアマネージャーからお話をお聞きしております。又、入居当日に受け入れカンファレンスを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前、家族、本人と話し合い法人内の他施設・協力病院とも連携し、その時に必要なサービスを見極める努力をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し、洗濯たたみ、掃除、調理等理念を大切に生活の中で時間がかかっても出来る事は行って頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には状況報告を時にはケース記録を使って行ってご本人の現状理解を共有している。又、本人様を思う家族の気持ちを反映したケアプランも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	多い少ないはありますが、家族、知人の面会があります。又、病院受診は家族様をお願いしている事もあり受診して昼食を自宅や外食して戻られる方もおります。	入居時に馴染みの人や場所についてアセスメントを行っている。友人の訪問、手紙の支援などを行い、利用者の声を家族に報告をして、家族の協力で外出、外泊、外食、通院等様々な馴染みの関係が途切れないよう継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者同士の相性や状態をみてリビングの席や配置を考えてトラブルにならない様見守っております。毎朝の体操やレク、行事など合同で行われ他ユニットとの交流も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の他施設に入所された際は、機会がある時は面会したり家族に連絡したり声をかけております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り希望に寄り添ったケアに努めており、これまでの生活歴からも把握するようにしております。	生活歴から把握し、日常生活の様子から汲み取りながら、利用者のそのままの言葉を記録し、利用者のできる事は参加してもらい、見守りながら思いや意向の把握に努めている。気づき、情報は介護記録に記入し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し本人の生活歴や好みなど把握に努めている。本人や家族からお聞きして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を利用し本人の生活歴や好みなど把握に努めている。本人や家族からお聞きして把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日ケアプラン実施表でケアプランの確認をしております。毎月、月末に評価してケア内容を見直ししており現状にあったケアプランを作成しております。	見直しは3ヶ月に1度行っている。センター方式を利用し24時間シートを活用して、意向・好み、できる事、現状・理由、サポートが必要な事を記録している。ケアプラン実施表で毎日モニタリングを行い、月末に評価をしている。それぞれを活用しケアプランの作成に役立てている。又、見直し前に家族の要望を聴取して、計画作成後に手渡し又は郵送で承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録はその都度記入し出勤時には申し送りノートとケース記録の確認をしております。受診者情報は各担当者が記入するが偏りがない様他職員も気づきメモを渡してユニットの意見を反映してます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員で出来る範囲はケアカンファレンスを行い対応してますが家族の協力が必要な場合は報告相談しております。他サービスへの移行等、情報提供をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の回覧場にて地域情報を把握し、地域行事には積極的に参加している。保育園母の会の資源回収では施設前に来て頂き、近くの公園に散歩に出かけた際は挨拶する関係です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に受診は家族へかかりつけ医への受診をお願いしております。対応が困難な場合は協力病院につき施設で対応しております。受診等の相談は日中、夜間共に協力病院へ相談できる。	受診者情報を持参し、家族対応でかかりつけ医への受診を行っている。希望者は協力医の訪問診療を受診できる。異変があった場合は法人特養の看護師に相談し対応し、夜間、緊急時は協力医に相談し対応している。又、希望者、必要な利用者は月1回の訪問歯科を受診することができ、週1回口腔ケアを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や変化が見られた場合は施設内併設特養看護師や協力病院の看護師へ相談し指示をもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も時々様子を見に伺ったり、ご家族様へ連絡し情報の把握に努めている。病院関係者と退院カンファレンスに参加するなど連絡をとり情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取りは行っていないが看取り介護事前指定書にてご家族様の本人の意向を確認している。重度化した場合は家族や法人内の特養や病院関係者とも連絡を取り合い相談している。	看取りは行っていない。利用者、家族の意向を確認している。重度化し医療行為が必要になった場合は、事業所では対応が困難であることを説明し、その際は家族と話し合いながら法人内の病院、特養と連携をとり支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットのファイルに急変時のマニュアルがあり誰でも確認できるようにしている。救命講習を実施しているが今後は勉強会を定期的に開催していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設に防災ラジオを設置しており早い段階で災害に備える。施設防災訓練では地域回覧版にてお知らせしたり、地域防災訓練にも参加している。	年2回併設の特養と合同でユニット内からベランダへの避難、消火活動の訓練を行っている。回覧板にて訓練のお知らせを行っているので自治会長の参加がある。3日分の食料の備蓄があり、発電機、カセットコンロ等の備品の備えがある。豊橋市からの依頼で避難指定所になっている。近隣で火事があった時は場所を提供している。又、年1回心肺蘇生、AEDの救命訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話しの否定はせず、分かりやすい声掛けに努めている。訪室の際はノックして声かけしてから入室しております。又、汚れたりハビリパンツ等は他者の目に触れないように新聞紙で包んで破棄しています。	接遇についての指導は法人の研修、事業所内の研修等で行っている。不適切な対応がある場合はその都度注意をしている。ケースカンファは個人名がでる為、周りに配慮しながら行い、声掛け、会話、呼び名など尊厳を損なわない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話から本人の気持ちを聞き出すようにしている。出来るだけ自己決定出来る様に声かけと傾聴に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況や本人の状態を見て出来るだけ希望にそうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方はその日に着る服を選んで頂いたり季節にあった服を着て頂く様に声掛けしております。又、お化粧をされる方もおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理では野菜の皮剥きやもやしのひげとり等、包丁も使える方にはお願いし、食事前後のテーブル拭きや下膳(湯呑み1個でも)又、食後の食器洗い等出来る範囲で行って頂いております。	年1回利用者に対し嗜好調査を行い、法人特養の管理栄養士が献立を決め、職員が調理している。配膳・下膳などできる事は見守りながら利用者と共にしている。行事食は敬老の日の祝い膳、正月のお節などがあり、たこ焼き器を利用してパンケーキ、心太などの手作りおやつがある。朝食は希望があれば洋食も可能である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に食事摂取量を記入し入浴後や、おやつ時に手作りの飲料を飲んで頂いております。水分摂取が少なめの方はゼリーにしたり水分補給に努めております。献立は併設特養管理栄養士が作成しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、入れ歯の方は洗浄剤にて消毒し清潔に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方は排泄表を付けて声かけトイレ誘導を行っております。	入院中おむつを使用していた利用者が退院後リハパンを使用し、排泄表に記録して定期誘導を行い、利用者の訴えに応じて誘導を行うことで尿意を取り戻した事例があり、自立に向けた支援を行なっている。便秘時は医師の指示で対応している。夜間は3時間ごとに巡視を行い、覚醒誘導は行わない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のおやつに牛乳を取り入れた飲み物を提供しており、排便が困難な方は家族よりヨーグルトを持って来て頂いたり主治医に相談し下剤を処方頂き排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間は、緊急時や職員の体制を考慮して行っていないが日中、毎日入浴したい方や入浴を嫌がる方もみえますので出来る限り気持ちに添うようにしております。	基本、入浴は週3回である。1日5・6人を午前と午後に分けて行っている。回数、時間帯は希望に応じて対応可能である。バスマットは感染予防対策として個人使用で対応している。水分補給はスポーツドリンクで対応(好みの可)。入浴拒否の利用者には無理強いせずケースカンファで話し合い言葉かけの工夫で支援している。又、季節入浴の菖蒲湯、ゆず湯で入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝は自由にされており就寝前はパジャマに着替えて頂いております。夜間は巡回を定時に行っており、活動される方にはその都度対応しております。室温や明るさにも注意しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診で薬が変更の場合は申し送りノートにて確認している。服薬表があり誰がどれだけ服用しているか分かるようになっている。又、個別ファイルに薬の情報を綴じて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝のラジオ体操はユニット合同で行い日々のレクリエーションも午前・午後と行われ楽しく過ごされておられます。又、毎月の行事担当があり担当者はその月にあった行事を企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	インフルエンザが流行する時期は感染症予防の為外出を控えております。近くにお店も少なくジャスコへ出かけたたり家族の協力を頂きながら動物園等の遠足に出かけている。	日常的な外出は徒歩で近隣の公園へ散歩に出掛けている。外出企画は家族の協力を得て行い、春の遠足は田原のサンテパルク、秋の遠足は豊橋動物園、初詣は杉山町神社、プラネタリウムなど外出している。月1回イオンへ買い物に行き、おやつを食べて帰宅することがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	10000円程度のお小遣いを預かっており管理が困難な方が多い為職員が支援してます。状況に応じて本人に持って頂いている方もいます。月1回程度買い物へ行き金銭の取り扱いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の手芸ボランティアにて暑中見舞いを作成しそれぞれの思いをかかれました。電話については希望があれば応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁紙を作ったり居室入り口に飾っている。季節や時間に応じて室温調節や光の調節を行っている。	毎日利用者と共に清掃を行っている。ぬり絵、写真、ちぎり絵などの作品と手作りの日めくりカレンダー、1日の日程表の掲示がある。加湿器付きの空気清浄器、テレビ、ソファ、手すり等の設置がある玄関には来客用の手洗い、うがい、消毒液があり、検温を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は自由に過ごされ相性を見ながら席替えも行っております。食堂の場所以外に団らんスペースを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には表札がある。入居時に馴染みの家具を持って来ていただく様お願いしている。	毎日利用者と共に清掃を行っている。週1回のシーツ交換を行っている。トイレ、洗面台、エアコン、ベット、カーテン、ナースコールの設置がある。天窗は開閉でき換気を行っている。ベランダに面した掃き出し窓は制限付きのストッパーが装着してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーで福祉用具を適宜導入して自立した生活を促しています。		

(別紙4(2))

事業所名 認知症対応型グループホーム カサ デ ヴェルデ

目標達成計画

作成日: 平成27年4月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議が勉強会中心の為、地域住民との意見交換が少ない。	地域住民と気軽に意見交換できる関係作り	地域行事への参加を継続し施設の催しへの参加等行う	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。